

行政視察等報告書

令和7年5月2日

知立市議会議長 様

報 告 者	岩城 道雄（篤心会）
日 時	令和7年4月24日（木）・25日（金）
視察（研修）場所	参議院議員会館
目 的	省庁レク
<p>農林水産委員会見学</p> <p>質問者は、近年の海の水温の変化による漁業への影響と、それへの漁師の対応、捕る魚による業法の違い、そのことでの漁具の準備やとった魚の流通についても資していました。</p> <p>当時の江藤農林水産大臣は状況を知ったうえで、漁具の整備への補助等について、答弁があった。各地に様々な課題があり、多くの人は知らないながら、担当部署が政務官、大臣が対応しており、地球規模の変化により生み出される課題、影響を強く受け、地域、職業等により影響があり対応があること知りました。</p> <p>その後、米価の高騰の課題が大きくクローズアップされ、その中で江藤農林水産大臣が辞職し、この分野に見識の高い方だと感じただけに、残念な結果でした。</p> <p>文部科学省の担当者による不登校問題を中心にした課題とクラブ活動の地域移管の解説と若干の質問への回答</p> <p>不登校児童は年々増加しており、様々な要因が重なっておる。したがって対応もただ一つということではなく、本市でも、スクールカウンセラー等の人員配置、教室に入れない子供たちへの対応、家庭との密接な連絡を通しての対応、生活習慣の改善への取り組み等をしながら、不登校児とその保護者の不安を除き、元気よく学校生活に参加できるようにとサポートをしている。このような対応や実態は全国同じように起きている。とのこと。こちらからは、丁寧な対応の指導を仰ぎ感謝し、また、不登校生の実態をよく知るための、学校後の動向調査の提案をしたが、既に実施していてまとめも作成中でタイミングを見ながらの発表の準備段階であることを示してもらった。</p> <p>また、学校の部活動の地域移管の課題についての、全国的な視点での必要性と取り組み例等の説明を受けた。まず、この課題の取り組みは、少子化による生徒減で集団活動ができる部員が集まらないという実情への対応から始まったこと。数校が一つのチームを作り活動ができる状況を作り徐々に同じような問題が発生している地域へと広げていき、同時に別の課題である教員の働き方改革のひとつの解決策にもなっている。教員の重要な仕事である生徒に向かい合い、適切に指導するための時間が確保できないという課題を少しでも解決するために、時には非常に負担感が生まれる部活顧問を引き受けられない選択肢も生まれ、また、地域の他校生徒との交流も生まれ可能性等の利点もある。</p> <p>先進事例として静岡県掛川市の事例が示された。地域移管には多くの課題がある。指導を引き受ける受け皿の課題、安全性が確保されるかの課題。学校クラブ活動は、心身を鍛え、技を磨き向上心を養うということにさらに、教員と生徒の距離感を縮め、日常的な学校活動に資す</p>	

るといふこともあり、地域にクラブ活動が広がると地域との結びつきが生まれる反面、学内の生徒、教員間の関係に微妙に影を落とすことも考えられる。クラブ活動が日本のように、教員の指導の下に行われる国は少なく、日本でも水泳競技がスイミングスクールに移った例はあるが、見通しは立ちにくい。今は、土曜、日曜の活動から移管され始めているが、状況をよく観察する必要がある。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。